

施設名	株式会社日吉屋
分類	伝統産業工房
住所	〒602-0072 京都市上京区寺之内通堀川東入百々町546
施設概要	<p>・ 1階 店舗 / 2階 工房 / 3階 体験教室</p> <p>対応可能言語 英語</p> <p>※対応可能人数：20名（それ以上の場合は、他会館手配要）</p> <p>提供プログラム 工房見学 525円 体験工房（ミニ和傘作り） 4,200円</p> <p>* 工房見学は5人以上で対応可 * 出張可</p>
客層	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育旅行 ・ インセンティブ ・ インバウンド
概要	<p>「日吉屋」は、五代百余年にわたり和傘を作り、現在では唯一の京和傘製造元です。茶道家元・宮内庁御用達の京和傘を製造しています。江戸時代後期に初代西堀助藏が創業しました。二代目が現在の宝鏡寺門前に店舗を移し、伝統の技を継承しつつ、新しい技術や発想を取り入れた革新的な商品作りもこころがけています。五代目当主である西堀耕太郎氏はおっしゃいます。今でも、京和傘を向かいにあるお寺で、天日干しするなど、昔ながらの伝統を垣間見ることが出来ます。今では和傘は雨よけとしての実用品としてより、むしろ茶道の野点傘や歌舞伎など伝統芸能や祭事の道具として文化、伝統工芸品です。普段使いの傘としての需要が無くなり、せいぜい日本情緒の空間を演出する小道具としての需要しか無くなり、先代で店をたたもつとすら考えていました。その日吉屋が転機を迎えたのは、2006年西堀氏が結婚を機に、妻の実家である日吉屋の跡継ぎになった時です。和傘を照明に使う斬新な製品を作りました。更に、新しいマーケットを海外に求めました。2007年には「グッドデザイン賞」を取り、今やその商品を扱う国は15カ国に増えています。「Tradition is a continuation of innovation」と、現在はミラノ・フランクフルト・パリと海外展示会にも積極的に出展し、この9年で売り上げが約50倍に増えました。</p>

